

所長だより第48号 平成28年8月31日

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに 学んで世界の 明日をみる」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<http://www.uminoko.jp/>

「暑さ寒さも彼岸まで」

【所長 青木 正士】



今年の夏も非常に暑い日が続きました。野外で行われるウォークラリーやカッター活動は、猛暑の影響を直接受け、体力の消耗や熱中症などの心配が大きくなります。

日本での最高気温の記録は、長く1933年7月25日に山形市で観測された40.8℃でした。フェーン現象によって地形的に高温となったもので、この日全国すべてで異常な高温であったわけではありません。

この記録を更新したのは、2007年8月16日に埼玉県熊谷市と岐阜県多治見市で観測された40.9℃です。お判りでしょうが、大きく離れた2か所で同日に記録されているということは、全国的に高温であったということです。

そして、さらに最高気温の記録は2013年8月12日に塗り替えられました。高知県四万十市江川崎で41.0℃を観測したのです。この2013年は、8月10日に山梨県甲府市で40.7℃、翌日の8月11日には千葉県茂原市で39.9℃を観測し、連日異常な高温が全国各地で続いていたのです。

体温をはるかに超えるこのような異常な高温が今後も続くのでしょうか。幸い、滋賀県は日本一広く、水量も日本一大きな琵琶湖を抱えているため、気温の変化は陸地ばかりの地域に比べて小さくなるため、他府県よりは少し過ごしやすい気温となります。

ところで、最低気温は1902年1月25日に北海道旭川市で観測された-41.0℃からずっと更新されていません。2000年以降では、2001年1月14日の北海道占冠村での-35.8℃の記録が最低となっています。旭川市でも2008年の-25.7℃が2000年以降での最低気温です。

こうしてみると、最高気温はさらに高く、最低気温も高くなっていく、温暖化の傾向にあるように思われます。子どもたちの体調も心配ですが、自然環境へも大きな影響があるのではないのでしょうか。琵琶湖で問題となっている深部の低酸素状態や水草の繁茂なども関係あるかもしれません。

「暑さ寒さも彼岸まで」という言葉通り、そろそろ過ごしやすい日となるように願っています。